

まえがき

『やっぱり性は美しい！』を手に取っていただき、ありがとうございます。

性が美しいということは、自然は美しいということと同じぐらい、あえて言葉にする必要もない当たり前の、当然のことだと思っております。

それでもあえて、堂々と言い切りたい！ という想いがふつふつと湧いてきます。

美しい以外に何があるんだ、と思うものの、情報に溢れたこの社会では誰もが情報過多になりさまざまな影響を受けているので、その人の持っている本質的な純粹な感性が埋もれてしまっているように感じます。

頭でっかちになっている方が多いなあと思います。性ってそんなにややこしいことではないはずです。

男女が惹かれ合うこと、つながろうとすることはとっても自然なことです。この人のそばにいる

と心地よいなあと感じる。触れ合えると喜びでいっぱいになる感覚。もうすでに私たちの身体にはプログラムされているんですね。

余計なものをくつつけすぎているので、この本がそうしたことに気づくきっかけになれば嬉しいです。

性のことを知るのにたくさん本を読みました。たくさん調べました。自分にとって違和感のあるものは採用せずに疑問を持ちつけました。心の奥底にある「美しいはずだ」という小さな望みの栄養になるものだけを私の中に取り込んでいきました。

「性は素晴らしい！ 美しい！」と堂々と語る自分になれた喜びを皆さんとも共有できたら嬉しいですし、何か参考になりそうなことは取り入れていただいて、ご自身の生活をより豊かな世界にしていただけると嬉しいです。

本文中では女性器をヨニ、男性器をリングラムという言葉にしています。これはサンスクリット語なのですが、単なる名称というだけではなく、敬意を持って使われているという背景がありま

す。響きが新鮮でかわいいことと、そこに敬意があるということが私にはしっくりきているので好んで使っています。また、馴染みのない言葉なので、既成概念から離れて新しい感覚で出逢い直せるという面もあります。

ちなみに、ヨニには「神聖な器、場所」、リングムには「光の杖」という意味があります。素敵ですよね。

古い時代には、世界のあらゆる場所で性は尊ばれていて、性器も当然のことながら尊ばれていました。日本でも性器信仰と呼ばれ、縄文時代には男性器を模した石棒があり、今でも全国各地にその名残があります。

今この時代にあっても、私たちは性にも性器にも敬意を持つことは忘れてはいけなないことだと思います。